

中学校家庭科における衣服の活用と整理

— 保有衣服量と環境に対する意識をもとにして —

Utilization and Sorting of Clothes in Home Economics Classes in J.H.S

— Based on the Amount of Clothes Owned and Environmental Consciousness —

横山 真智子・渡邊 夏海・夫馬 佳代子

YOKOYAMA Machiko, WATANABE Natsumi and FUMA Kayoko

要約

本稿では、中学校家庭科における衣服の活用と整理の授業実践について報告する。はじめに、生徒の衣服に関する消費行動と環境に対する意識及び保有衣服について実態調査を行った。その上で、授業構成を考え、生徒の課題解決に参考となる副教材を作成し授業実践した。授業の導入では、衣服量調査において明らかとなった「あまり着ない」「ほとんど着ない」私服が約 26%ある結果をもとに、経済的な損失を減らし、資源を無駄なく利用し、環境負荷を少なくするために、衣服の活用方法を考えられるよう課題化を図った。そして、生徒の理解を促し生活実践へつなげられるよう、具体的な不要衣料の活用方法を示した冊子を使用した。また、生涯にわたって自分で衣服管理ができるよう、多量の衣服を保有する高齢者のために衣服整理の基準を考える活動を取り入れた。生徒は、衣服量調査を通して自分自身の衣服管理の現状を見つめ、不要衣料の活用方法を新たに知るとともに、必要性を考えた衣服の入手や、手持ちの衣服との組み合わせを考えた選択、購入の大切さについて理解した。衣服整理や活用方法、処分の仕方のみでなく、衣服の選択、購入など家庭へのインプットについて考慮することの重要性に気づくことができる実践となった。

キーワード：家庭科，保有衣服，消費者教育，持続可能な開発，環境行動，高齢者衣服，不要衣料
Key Words : home economics, clothes owned, consumer education, sustainable development, environmental behavior, clothes for the elderly, unnecessary clothes

1. はじめに

持続可能な社会の構築に向けて、大量生産，大量消費，大量廃棄の生活様式が見直されてきている。環境に負荷をかける廃棄物の発生を抑制するためには、私たちがモノを家庭へインプットする際の消費行動について見直す必要がある。同時に、再生可能な資源の回収を図り、再利用や再資源化につながる方法で不要衣料を処分することは、環境に負荷の少ない循環型社会の構築につながる。中学生にとって、衣服を入手する際に処分や廃棄の方法について考慮する視点をもつことは、環境に対する意

識や将来の行動変容につながるのではないかと考え、授業実践を試みた。

平成 29 年 3 月に公示された新学習指導要領の解説¹⁾において、「B(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」で、「衣服の再利用等についても触れること」と新たに記載された。着なくなった衣服の一部を利用して生活に役立つ小物を製作したり、衣服に使用されていたボタンを別のもので再利用したりすることを授業で扱うことになる。古来より大切にしてきた「もったいない」精神を衣生活においても取り上げるとともに、地域の高齢者などにその活用法を教えていただくことも考えられる。このように、環境に配慮する視点から、衣服等の再利用の方法や廃棄まで見通した購入の仕方について考えることの大切さについて述べられている²⁾。

これまで、家庭における衣服の消費と廃棄や、衣服の消費実態と消費者教育について、研究報告がなされている³⁻⁴⁾。しかしながら、中学生が高齢者の保有衣服の分類条件を整理した実践はほとんどない。そこで、中学生自身の保有衣服量の調査を契機とし、成長期の衣服の処分の仕方を見るとともに、多量の衣服を保有している高齢者のために衣服を分類する条件を洗い出す活動を仕組んだ。

中学生が、自分の衣服量調査を実践し、経験から感じたことをもとに、衣服の処分方法や廃棄の仕方考えた入手の仕方について考えることは、今後の衣服選択の意識変化に影響を及ぼすのではないかと考え、本研究を行うこととした。

2. 中学生の衣服に関する消費行動と環境に対する意識の実態

(1) 方法

中学 1 年生 128 名を対象に、質問紙調査（自記式、集合調査法）を行い、衣服を購入する頻度や方法、選択の視点など、衣服の消費行動にかかわる 6 問（表 1）と、環境意識や環境行動にかかわる項目 20 問（表 2）について質問した。尚、環境に対する意識や環境行動についての項目は、グリーンコンシューマー10原則と、消費者庁による「環境問題に関する世論調査」⁵⁾の回答率上位 7 項目の質問などとの関連を考慮して設定した。

無回答の項目がある場合は、該当する質問項目のみ無効とした。また、1 つのみ選択する質問における複数回答は、無効として扱った。

表 1 衣服の消費行動に関する質問項目

| 質 問 内 容 | |
|---------|--|
| 1 | あなたの衣服（私服等）は、誰が選びますか。（支払いは保護者の場合でも、自分で選ぶ場合は「自分」） A：自分 B：父親 C：母親 D：兄弟姉妹 E：祖父母 F：友達 G：その他（ ） |
| 2 | あなたは季節ごとにどれくらいの頻度（回数）で衣服を購入しますか（季節ごとに回答）。 A：週1回 B：月に2回ほど C：月に1回ほど D：2か月に1回 E：その他（ ） |
| 3 | 一回の買い物で支払う金額で、最も近いものはどれですか。 A：1万円以上 B：5千～8千円 C：3千～5千円 D：1千～2千円 E：1,000円未満 |
| 4 | 衣服を選択する際に意識する視点を3つ選び、優先順位を記号で書いてください。 A：サイズ B：価格 C：素材 D：手入れの仕方 E：デザイン（色・柄） F：流行 G：製造国 H：メーカー |
| 5 | 私服の購入から処分するまでの期間 A：3年以上 B：1～2年 C：3ヶ月～5ヶ月（ひと季節のみ） D：数回しか着ない E：その他 |
| 6 | 着なくなった衣服の処分方法 A：誰かに譲る B：フリーマーケット等で売る C：ゴミとして処分する D：家に保管しておく E：資源回収などに出す F：その他（ ） |

表 2 環境に関する意識調査の質問項目とグリーンコンシューマー10原則との関連

| | 質問内容 | 関連 |
|-----|---|---------------------------------|
| 1. | あなたは、普段の生活の中で、ごみを減らす努力をしていますか。 | |
| 2. | あなたは、買い物をするとき、必要な分だけ買うよう心がけていますか。 | 10原則① |
| 3. | あなたの家庭では、詰め替え製品を使用していますか。 | 環境問題に関する世論調査 [※] 上位7項目 |
| 4. | あなたは、食べ残しをしないように心がけていますか。 | 環境問題に関する世論調査 [※] 上位7項目 |
| 5. | あなたの家庭では、壊れにくく、長持ちする製品を選ぶようにしていますか。 | 環境問題に関する世論調査 [※] 上位7項目 |
| 6. | あなたの家庭では、すぐに流行おくれになったり飽きたりしないようなものを買わないようにしていますか。 | 環境問題に関する世論調査 [※] 上位7項目 |
| 7. | あなたの家庭では、壊れたものを修理して長く使うようにしていますか。 | 環境問題に関する世論調査 [※] 上位7項目 |
| 8. | あなたは、一度使用したビンや缶、箱などを捨てずに、そのままの形で使用することがありますか。 | リユース |
| 9. | リサイクルショップや不要品交換などを利用することがありますか。 | リユース |
| 10. | あなたの家庭では、排水（米のとぎ汁や風呂の水）を利用していますか。 | |
| 11. | あなたの家庭では、新聞紙や空き缶などを資源回収に出していますか。 | リサイクル |
| 12. | あなたの家庭では、ペットボトルやビンなどを資源回収に出していますか。 | リサイクル |
| 13. | あなたは、買い物をするとき、包装（袋やブックカバーなど）を断ることがありますか。 | 10原則③ |
| 14. | あなたの家庭では、使い捨て製品を買わないようにしていますか。 | 10原則② |
| 15. | あなたは、「作るとき・買うとき・捨てるとき」にどれだけ資源やエネルギーが使われるか意識して、買い物をしていますか。 | 10原則④ |
| 16. | 買い物をするとき、商品にふくまれている化学物質による環境汚染や、健康への影響の少ないものを選ぶようにしていますか。 | 10原則⑤ |
| 17. | 自然や生物多様性を損なわない（多種多様な生物が生息できる配慮のある）ものを選ぶようにしていますか。 | 10原則⑥ |
| 18. | 自分の家の近くで生産・製造されたものを選ぶようにしていますか。 | 10原則⑦ |
| 19. | リサイクルされたもの、リサイクルシステムのあるものを選ぶようにしていますか。 | 10原則⑨ |
| 20. | 環境問題に熱心に取り組んだり、環境情報を公開したりしているメーカーや店を選ぶようにしていますか。 | 10原則⑩ |

(2) 衣服の消費行動に関わる調査結果

衣服の消費行動に関わる調査の結果では、自分で衣服を選んでいる生徒が、69.7%と最も多く、次いで母親（24.2%）、兄弟（3.8%）、祖父母（1.5%）、父親（0.8%）であった。季節ごとの購入頻度については、月に1回や2ヵ月に1回との回答数が多かった（表3）。

表 3 季節ごとの衣服を購入する頻度 (%)

| | 週一回 | 月に2回ほど | 月に1回ほど | 2ヵ月に1回 | その他 |
|---|-----|--------|--------|--------|------|
| 春 | 1.6 | 18.3 | 33.3 | 34.1 | 12.7 |
| 夏 | 3.2 | 17.7 | 36.3 | 32.3 | 10.5 |
| 秋 | 2.4 | 21.0 | 29.0 | 37.1 | 10.5 |
| 冬 | 4.0 | 16.9 | 34.7 | 32.3 | 12.1 |

一回の買い物で支払う金額は、3,000円から5,000円の間が42.6%と最も多く、次いで5,000円から8,000円が31.1%、1,000円から2,000円が13.1%、1万円以上が9.8%、1,000円未満が3.3%であった。購入から処分までの期間は、1～2年が71.7%と最も多く、次いで3年以上14.2%、3ヵ月から5ヵ月(ひと季節のみ)3.9%、数回のみ2.4%、その他7.9%であった。その他の理由としては、「わからない」がほとんどであり、保有期間に対する意識の低い生徒がいることが明らかとなった。

衣服を選択する際に優先する3つの視点を、表4に示す。その結果、衣服選択時には、「サイズ」を最も重視し、次に「デザイン」や「価格」を優先していることがわかった。私服の購入から処分までの期間として、1～2年と回答した生徒が多かったことから、成長期の中学生にとっては、サイズが合わなくなるという理由で衣服を処分すると推測できる。このことは、衣服の選択の際に「サイズ」を意識すると回答している生徒が最も多いことにもつながる。

表4 衣服選択時に優先する視点 (%)

| 優先順位 | サイズ | デザイン | 価格 | 素材 | メーカー | 流行 | 製造国 | 手入れの仕方 |
|------|------|------|------|-----|------|-----|-----|--------|
| 1位 | 58.3 | 27.6 | 6.3 | 5.5 | 0.8 | 0.8 | 0.8 | 0.0 |
| 2位 | 12.7 | 31.0 | 43.7 | 6.3 | 3.2 | 2.4 | 0.0 | 0.8 |
| 3位 | 16.7 | 19.8 | 38.9 | 9.5 | 5.6 | 6.3 | 1.6 | 1.6 |

着なくなった衣服の処分方法としては、半数が「誰かに譲る」と回答した(表5)。身体の成長により着られなくなったものでも、衣服としてはまだ十分に活用できるものであるため、兄弟姉妹や親戚などへ譲る方法で処分していると考えられる。また、アンケート項目にはなかったが、兄や親戚から譲ってもらうことが多いため、ほとんど衣服を購入することがないという生徒もいた。

表5 着なくなった衣服の処分方法 (%)

| 誰かに譲る | ゴミ処分 | 家に保管 | 資源回収 | フリーマーケット | その他 |
|-------|------|------|------|----------|-----|
| 50.0 | 23.6 | 10.4 | 9.0 | 2.8 | 4.2 |

(3) 環境意識に関する意識調査の結果

環境意識に関する意識調査の結果を表6に示す。中学生の75%は、「いつも」又は「時々」、「普段の生活の中で、ごみを減らす努力をしている」と回答している。さらに、93.8%が、「いつも」「時々」、「買い物をするとき、必要な分だけ買うよう心がけている」と回答し、できるだけ無駄のないよう消費行動をしていこうという意識が伺える。また、詰め替え製品の使用や飽きそうなものの不買など、家庭へのインプットの際に、環境を意識している割合が高いことが明らかとなった。ただし、これらの商品選択は、同時に、詰め替え製品の方が安いなど金銭面での利点を考慮している結果であるとも受けとれる。一方で、「いつも」「時々」リサイクルショップを利用している割合は29.7%、リサイクル品の選択44.5%と、金銭面での利点があっても、リサイクル品を選択しようという意識はやや低いといえる。

家庭からのアウトプットのついては、新聞紙(94.5%)やペットボトル(93%)などの資源回収に対する意識は高い一方で、瓶・缶・箱の再使用(42.2%)、排水の再利用(45.6%)は半数に満たない。

3. 保有衣服量及び、着用頻度

保有衣服量とその使用頻度について、家庭調査を実施した。調査した衣服の種類は、【上衣】6種①制服(夏服・冬服), ②体操服(長袖, 半袖), ③シャツなどの私服, ④パーカー, カーディガン, ⑤トレーナー, ⑥ジャンパー, コートなど, 【下衣】5種①制服(夏用・冬用), ②ジャージ, ハーフパンツ(学校指定のもの), ③ショートパンツ, ハーフパンツ, ④ズボン・スカート, ⑤その他の下衣, 【靴下】2種①学校用靴下, ②その他靴下, 【運動着】3種①スポーツウエア(部活動のジャージも含む), ②ユニフォーム, 胴着など, ③水着, ラッシュガード, 【その他】自由記述(例: ワンピース, ゆかた, レギンス, 下着など)であり, それぞれ「よく着る」「時々着る」「あまり着ない」「ほとんど着ない・今後も着ない」の4つの選択肢を用意した。

保有衣服量及び、着用頻度の調査結果を表7に示す。学校指定の制服については、上衣平均3.6着、下衣平均2.8着であった。制服については、夏服の上衣を複数所有している生徒が多いため、下衣に比べて保有数が多かったと考えられる。また、上衣を最も多く所有していた生徒は7着であった。

表6 中学生の環境に関する意識調査結果 (%)

| 項目 | いつも | 時々 | あまり | ほとんど |
|----------------|------|------|------|------|
| 1 1 1 1 1 | 14.8 | 60.2 | 21.1 | 3.9 |
| 2 2 2 2 2 | 58.6 | 35.2 | 6.3 | 0.0 |
| 3 3 3 3 3 | 52.0 | 33.1 | 13.4 | 1.6 |
| 4 4 4 4 4 | 64.1 | 25.0 | 9.4 | 1.6 |
| 5 5 5 5 5 | 61.7 | 35.2 | 3.1 | 0.0 |
| 6 6 6 6 6 | 35.9 | 46.9 | 14.8 | 2.3 |
| 7 7 7 7 7 | 27.3 | 45.3 | 24.2 | 3.1 |
| 8 8 8 8 8 | 9.4 | 32.8 | 34.4 | 23.4 |
| 9 9 9 9 9 | 7.0 | 22.7 | 32.8 | 37.5 |
| 10 10 10 10 10 | 22.8 | 22.8 | 17.3 | 37.0 |
| 11 11 11 11 11 | 77.0 | 17.5 | 3.2 | 2.4 |
| 12 12 12 12 12 | 75.0 | 18.0 | 4.7 | 2.3 |
| 13 13 13 13 13 | 22.0 | 38.6 | 24.4 | 15.0 |
| 14 14 14 14 14 | 12.7 | 40.5 | 41.3 | 5.6 |
| 15 15 15 15 15 | 10.9 | 33.6 | 26.6 | 28.9 |
| 16 16 16 16 16 | 18.0 | 35.9 | 31.3 | 14.8 |
| 17 17 17 17 17 | 18.8 | 36.7 | 31.3 | 13.3 |
| 18 18 18 18 18 | 11.0 | 26.8 | 37.0 | 25.2 |
| 19 19 19 19 19 | 11.7 | 32.8 | 39.1 | 16.4 |
| 20 20 20 20 20 | 10.9 | 31.3 | 36.7 | 21.1 |

表7 着用頻度別平均所有衣服数 (単位: 枚, n=117)

| 分類 | 種類 | よく着る | 時々着る | あまり着ない | ほとんど着ない | 平均所有数 |
|-----|-----------------|------|------|--------|---------|-------|
| 上衣 | 制服(夏服, 冬服) | 2.9 | 0.4 | 0.2 | 0.1 | 3.6 |
| 上衣 | 体操服(長袖, 半袖) | 4.0 | 0.5 | 0.3 | 0.1 | 4.9 |
| 上衣 | シャツなど私服 | 8.2 | 3.9 | 2.9 | 1.8 | 16.8 |
| 上衣 | パーカー, カーディガン | 3.2 | 1.8 | 0.9 | 0.5 | 6.4 |
| 上衣 | トレーナーなど | 1.6 | 0.9 | 0.5 | 0.4 | 3.4 |
| 上衣 | ジャンパー, コートなど | 1.6 | 0.9 | 0.5 | 0.4 | 3.4 |
| 下衣 | 制服(夏用, 冬用) | 2.3 | 0.3 | 0.1 | 0.0 | 2.8 |
| 下衣 | ジャージ, ハーフパンツ | 3.6 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | 4.2 |
| 下衣 | ショートパンツ, ハーフパンツ | 3.4 | 1.3 | 0.7 | 0.3 | 5.7 |
| 下衣 | ズボン, スカート | 3.4 | 1.7 | 1.2 | 0.6 | 7.0 |
| 下衣 | その他の下衣 | 2.0 | 0.8 | 0.2 | 0.1 | 3.1 |
| 靴下 | 学校用靴下 | 5.6 | 1.3 | 0.6 | 0.1 | 7.6 |
| 靴下 | その他靴下 | 4.8 | 2.4 | 1.5 | 1.2 | 9.9 |
| 運動着 | スポーツウエア | 2.6 | 0.8 | 0.7 | 0.4 | 4.6 |
| 運動着 | ユニフォーム, 胴着など | 1.6 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 2.5 |
| 運動着 | 水着, ラッシュガード | 1.3 | 0.7 | 0.5 | 0.2 | 2.6 |

私服については、「よく着る」「時々着る」上衣が 68 着あった生徒がいる一方で、1 着という生徒もおり、個々の保有数に差が見られた。また、小学生のときに着ていた衣服を保有したままで「あまり着ない」衣服を 35 着、「ほとんど着ない」衣服を 24 着保有していた生徒がいた。同様に、靴下についても、小学生のときに使用していたものをそのまま所有している生徒がいるため、平均保有数 9.9 足であった。「よく着る」その他の靴下の最大値は 24, 「時々着る」が 15, 「あまり着ない」が 14, 「ほとんど着ない」が 30 であった。これらの衣服調査を通して、「あまり着ない」「ほとんど着ない」衣服を所有していない生徒と、着る機会がないにもかかわらず所有し続けている生徒がいることが明らかとなった。

衣服調べをして気づいたこと、感じたこととして、次のような生徒の記述が見られた。

- ・意外と奥に履かないくつ下や服がねむっていたので驚きました。今後は、整理などをして、全部均等に使えるようにしたいです。
- ・使っていないのが多い。学校の服装が制服になったため、私服を土日以外着なくなった。あまり使わないものいらなくていいものは、弟にあげてすっきりさせたい。また、自分は軽くて動きやすい服が多い。
- ・くつ下が少し余分なので、いらなくなったらすぐ捨てたりしたい。運動の服はほぼ毎日着るので、もう少し買いたい。そして、きちんと衣服を着こなしたり、私服の組み合わせも工夫したりして、よりよい着方をしていきたい。
- ・私は、かなり多くの服をもっていることに気がつきました。また、あまり着ないものも意外に多かったので、今後、服を買うときは本当にいるのかなどを考えるといいと思いました。
- ・すべての服が効率よく着られるように考えて選びたいと思いました。私は新しい服を買ってもらえるけど、妹は私が着た服を着たりしているので、妹のためにも大切にしたいです。
- ・衣服調べをすると、体操服や制服はよく着るけど、部活も多くなってきたので、私服はあまり着ていないものが多いことがわかりました。今後も着ないと思う服は、近所の子にあげたり、リメイクしたり、工夫して使えるといいです。もっと着ていると思ったけれど、調べてみるとあまり着ない服も何着かあったので、服を買うとき、いるかいないかをしっかり考えて買いたいと思いました。

生徒たちは、衣服調査を通して、i) 自分の好みの衣服を知った、ii) 着られる衣服の活用機会を増やしたい、iii) 不要衣料の処分をしたい、譲渡・リメイクなど工夫をしたい、iv) 手持ち衣服の組み合わせについて考えたい、v) 必要性や組み合わせを考えた選択・購入をしたいなど、自分自身の衣服の活用や選択、購入、処分の仕方などについて考えていこうという意欲をもつことができた。

4. 衣服の整理と活用の授業実践

衣服調べの結果を受けて、着る機会の少ない衣服をどのように処分、活用するとよいか考える授業を実践した。授業実践は、各務原市立桜丘中学校の1年生5クラス(130名)で行った(表8)。

表 8 衣服の整理と活用授業日程

| 日時 | 学級・人数 | 備考 |
|-----------------------------|--------------|----------------|
| 平成 29 年 11 月 22 日 (水) 2 時間目 | 1 年 5 組 26 名 | 【導入】不要衣料の処分方法 |
| 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 1 時間目 | 1 年 4 組 26 名 | |
| 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 2 時間目 | 1 年 3 組 27 名 | 【導入】衣服調べの結果から |
| 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 5 時間目 | 1 年 2 組 28 名 | なぜ、着ていないのか理由交流 |
| 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 6 時間目 | 1 年 1 組 23 名 | |

(1) 衣服調査の結果を用いた導入

衣服調査の結果を、学校の制服や体操服と、私服（上下：シャツやパーカー等）に分け、それぞれの着用頻度をグラフで示した（図1,2）。最初に授業を行った1年5組では、グラフで示した私服などの着なくなった衣服（不要衣料）を普段どのように処分しているか問いかけた。はじめに、個人で考え学習プリントに記入する時間を1分とり、その後、全体交流を行った。「ごみとして捨てる」「資源回収に出す」「リサイクルショップに売る」「姉妹や近所の人にあげる」などの意見が出たところで、衣服をごみとして燃やすのに必要な金額、衣服を燃やす際に排出されるCO₂の量などをクイズ形式で示した（電子黒板、プレゼンテーションソフト使用）。そして、捨てる際にはお金もかかり、衣服の原材料となる資源も無駄になること、そしてCO₂の排出を削減するためにも、「不要衣料をどのように活用できるか」考えていこうと課題化を図った。

そして、「着ていない衣服」の理由を洗い出し、ボタンつけやほころび直しなど補修すれば着られるもの、サイズが変わって着られないもの、すりきれたり色あせたりして衣服としては活用できないもの、まだ着られるが好みにあわなくなったものなどに分類し、それぞれの衣服に応じた活用方法について資料をもとに考えられるようにした。

5組の授業の導入の場面において、生徒の生活体験から、「ごみとして捨てる」以外の「資源回収に出す」や「リサイクルショップに売る」などの方法が挙げられた。そのため、1組から4組では導入の改善を図った。はじめに、5組と同様、衣服調査の結果を示した後、「なぜ着ていないか」その理由を個人で振り返り、次いで全体交流した。そして、着なくなった理由を分類し、捨ててしまうと経済的損失や環境への負荷が高まることを、クイズを通して気づかせ、不要衣料の活用方法について考えられるようにした。

(2) 不要衣料の活用を促す副教材

生徒が使用している教科書⁶⁾において、衣服の生産から廃棄までの流れ（p.127）や、着なくなったトレーナーをベストにつくり変えるリフォームの例が示されている（p.258）。しかしながら、

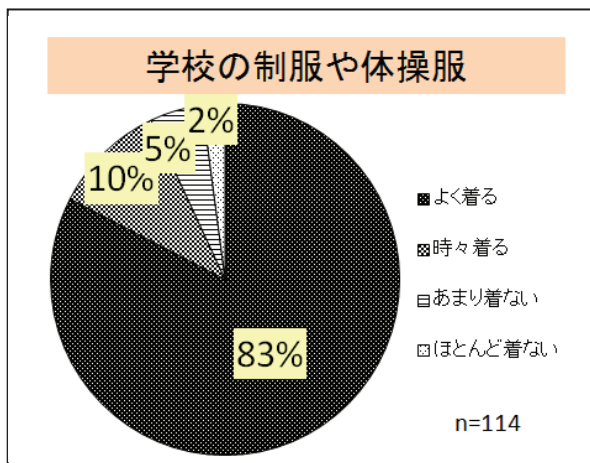


図1 学校の制服や体操服の着用頻度

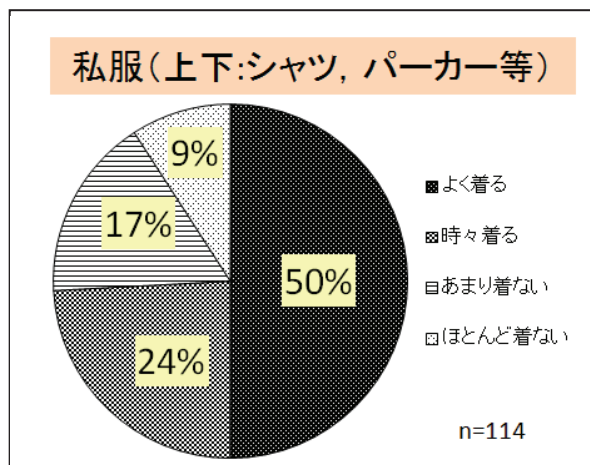


図2 私服（上下：シャツ・パーカー等）の着用頻度

生活の中の衣服管理 —不要衣料の活用—

1. 身近な不要衣料を考えよう
 - ◇不要衣料とは
 - ・自分が着なくなった衣服をどうしているか思い出してみよう
2. 保管された衣服のゆくえ
 - ◇不要衣料の原因
 - ・衣類を長期間保管すると起こりがちな問題とは？
3. ゴミとなった不要衣料
 - ◇ごみとして燃やされる衣服にかかるお金は43億円！？
 - ・衣服処理の現状：CO₂…1381kt
4. 不要衣料を活用しよう
 - ◇他の物にリメイクする
 - ◇他者のために役立てる
5. つくってみよう
 - ◇クッションカバー（ポロシャツ利用）
 - ◇ウォールポケット（幼児の衣服）
6. 実践編
 - ◇エコステーションの古着回収BOX
 - ◇応用編（考えてみよう）
 - ・不要衣料であふれた部屋の写真
7. 参考資料（大学生のアンケート結果）

資料1 不要衣料の活用を促す副教材の内容

不要衣料を保有している理由や処分にかかる費用や環境負荷などの情報、実践につながる具体的な活用方法等についての記載は十分ではない。そこで、具体的な情報や活用方法について生徒自身が手元において学ぶことができる副教材の開発を試みた(渡邊作成)。副教材として製作した小冊子の主な記載事項は資料1の通りである(全14ページ)。

副教材は、一人ひとりに配付した。資料1に示した内容の1~3については、教師による説明やクイズなどで知っている内容であったが、スライドが順次新しいものに更新されるため、手元において冊子で振り返るなど利用できるようにした。また、具体的なリメイクの例などを手順とともに示すことで、実際に家庭で実践する場合の参考となるようにした。近年、校区内の空き地が増えてきたエコステーションについては、既に活用している家庭があった。冊子で、回収できるものと回収できないものを詳しく紹介するため、生徒が実践に結び付けるための参考となった。

(3) 高齢者衣服の分類方法

前述したように、成長期の生徒は、サイズが合わなくなるなどの理由で不要衣料を保有していることが多い。しかしながら、今後も成長し続けるわけではない。そのため、大人になったときに不要衣料を保有しすぎることなく、生涯にわたって適正な衣服管理が行えるように、高齢者の衣服整理について考える場を設定した。

はじめに、たんす5棹ほどの衣服が引き出しいっぱいに入っている衣服を高齢者が整理しようとしている写真を提示した。そして、もしも自分のおばあちゃんだったら、一緒になってどのように衣服を整理していくか、その条件や手順を考えるよう促した。その際、5組では、「たんす〇棹、ケース〇個、ハンガー〇本」などの例を出して「数字を入れる」ように指示した。また、1組~4組においては、「数字を用いること」以外特に例示しなかった。

高齢者衣服を整理する際の基準として、生徒が挙げた条件は、表9の通りである。尚、表中の数字は、項目数の参考となるためのものであり、必ずしも手順を示したものではない。また、班で話し合

衣服の整理と活用

◇着なくなった衣服(不要衣料)をどうしているか
 ・ゴミとして捨てる → CO₂ 資源のムダ
 ・リサイクルショップに売る → 再使用
 ・姉妹にあげる

【評価の観点】
 問・創・技・知
 態度: A・B・C
 関与: 〇
 理解: A・B・C

課題 不要衣料をどのように整理・活用しようだろうか。(創)

①必要な衣服の種類・数(季節ごと)

②手持ち衣服の点検
 ⇒「着ている服」…不足分の入手方法を考える
 ⇒「着ていない服」…活用方法を考える
 ・サイズが合わない
 ・汚れてしまった
 ・流行のしじかない

◇衣服整理の基準(タンス〇さお、ケース〇個、ハンガー〇本)
 もしも、大量の衣服をもちいるおばあちゃんの衣服整理を一掃にしたら…

【自分の考え】
 タンス 1つ
 ケース 3つ
 はおろしい 5枚
 服(男) 20枚
 (女) 20枚

【仲間の考え】
 ・外用と家用を分ける。
 ・タンスとケースで季節を分ける。

【ふり返り】
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……

資料 2 生徒の学習プリント (5組)

衣服の整理と活用

p.112 衣服の計画的な活用
 ①必要な衣服の種類・数(季節ごと)
 ②手持ち衣服の点検 ⇒「着ている服」…不足分の入手方法を考える
 ⇒「着ていない服」…活用方法を考える

【理由:なぜ着ていない?】
 ・サイズが小さいから。自分の体型の変化
 ・自分の好みのデザインではないから。流行
 ・着る機会が減少。新しい服が増えた

【評価の観点】
 問・創・技・知
 態度: A・B・C
 関与: 〇
 理解: A・B・C

課題 不要衣料をどのように活用することができるだろうか。

◇着なくなった衣服(不要衣料)をどうしているか
 ・リサイクルをする
 ・年下の子にあげる
 ・リメイクする
 ・フリーマーケットに出す
 ・せりばんにする

◇高齢者の衣服整理の基準(数字を1つは入れて考えよう!)
 もしも、大量の衣服をもちいるおばあちゃんの衣服整理を一掃にしたら…

【自分の考え】
 1. よく着る衣服とあまり着ない衣服に分ける。
 2. よく着る衣服から、タンス1つにおさまる量だけ捨てる。
 3. 着ない服は売ったり、寄付りよ

【仲間の考え】

【ふり返り】
 ……
 ……
 ……
 ……
 ……

資料 3 生徒の学習プリント (3組)

いをして、意見をまとめた班もあれば、個々の意見を列挙しただけで、十分検討する時間がもてなかったものもある。

表 9 高齢者の衣服整理の基準（班の意見）

| 組・班 | 衣服整理の手順、条件 |
|-----|---|
| 1-1 | ①よく着る服と着ない服に分別する、②5着くらいずつ残す |
| 1-2 | ①将来的に着られるのか、②迷ったら捨てる、③きれいな服を残して他は捨てる |
| 1-3 | ①3秒で仕分けをする、②8着だけ残す、③デザインを見て決める |
| 1-4 | ①サイズで仕分ける、②デザインを見て、着るか着ないかを5秒で決める |
| 1-5 | ①普段着ていない服はリサイクルなど、②それぞれ8着ずつ残す、③季節によってたんすの半分にする、④汚れのある服を捨てる |
| 1-6 | ①着る、着ない、②ズボン15着、上着15着など数を決める③その他全部7枚ずつ（週7） |
| 2-1 | ①服全部でたんす2棹分以外は、売るか、形を変えて再利用する |
| 2-2 | ①たんす2棹くらいにする、②着るものと着ないものに分ける、③クローゼット一つ分にするしてまとめる |
| 2-3 | ①着る服と着ない服で分別、②たんす1棹分に収める、③着ない服は使えるか考え親戚に譲る、④リサイクルに出す |
| 2-4 | ①大事なものと大事じゃないもの、②サイズ、③着られない服はリサイクル、④1日1枚捨てる、⑤試着する |
| 2-5 | ①たんす1棹までの量にする、②種類分けをする、③いる物、いない物で分ける |
| 2-6 | ①資源回収に10枚くらい出す、②季節ごとに分ける、③上衣と下衣に分ける |
| 3-1 | ①たんす1つ分、②夏服と冬服に分けて、1週間分以外すべて捨てる、③季節ごとに10着分くらいに分ける、④1年間で1度も着なかった服は捨てる |
| 3-2 | ①いる服をそれぞれ10こくらい残す、②いるかいないかで分けて、リメイクして1つのダンスにおさまる量にする |
| 3-3 | ①上衣と下衣でそれぞれダンスに分ける、②気に入っている服を15着ほど残す、③着られなくなっている服は捨てるか売る |
| 3-4 | ①サイズが合わないものは、人にあげたり売ったりする、②たんすを減らす（1、2棹）、③お気に入りの服を残す |
| 3-5 | ①6割は売ったりして、4割は残す、②季節ごとに服を残す（それぞれ5着くらい）、③1週間分の服を最低限残す |
| 3-6 | ①サイズが小さい、似たような服、破れた服を処分する、②たんす1~2個分まで減らしていく |
| 4-1 | ①1か月以上着ていない服があったら捨てる、②服を1枚買ったなら1枚いらぬ服を捨てる（季節ごとに）、③服の枚数をたんす1~2棹くらいにする。それ以外は捨てる |
| 4-2 | ①たんす2棹ぐらいにする |
| 4-3 | ①ネットで30枚くらい売る、②季節ごとに枚数を決めて残す（Tシャツ5枚、ズボン5着） |
| 4-4 | ①ネットオークション、②たんす2個までにおさえる、③使う服と使わない服2つに分ける、④リサイクル |
| 4-5 | ①使うもの、使わないものを2つに分けて、使わないものは人に譲ったり売ったりしてできるだけ捨てないよう工夫する、②柄が好きなものを集めて再利用する、③しわがでやすいものをハンガーにかける、④やぶれたりしたものは再利用する |
| 4-6 | ①全部捨てる、②少しでもいらぬと思った服はリサイクルステーションに出す、③使う服と使わない服を分けてから捨てる、④服のサイズごとに整理する（今のサイズ、もし…は残さない） |
| 5-1 | ①ダンス1棹、ケース2個、ハンガー30、②いるものといらぬもので分ける、③サイズ、④残したいもの（お気に入りのもの）、⑤よごれているものとよごれていないもので分ける |
| 5-2 | ①同じ色や模様のを省く、②サイズの合わないものを省く、③今、着ないものを省く、④汚いものを省く |
| 5-3 | ④大きさ、②季節、③外用、家用、④古いものは捨てる、⑤着ないものは捨てる、⑥フォーマル用をハンガーにかける |
| 5-4 | ①服をいいものをわるいもので分ける、②使用するものとしないもので分ける、③使う服は、ダンス、上着はハンガー、④使わない服はケース、⑤色で分ける |
| 5-5 | ①ダンス1棹にする、②よく着るものとあまり着ないものに分ける、③あまり着ないものはリサイクルする、④1棹におさまらなかつたら、汚れがあつたりするものをリサイクル |
| 5-6 | ①今着るか、着ないか（よく着るか）、②気に入っている服、サイズが合うか、③たんす1棹、ケース1個、ハンガー15~20本、④あまつた服はリサイクル |

(4) 授業後の生徒意識

衣服の整理と活用の授業を終えた生徒の振り返りを以下に示す。

- ・クイズや資料、仲間の意見から、服を最低限にすることを心がけたいと思いました。大人になったら、自分で整理しないといけないので、今日の授業を参考にしていきたい。売ったり、捨てたりすることも大切だと思った。
- ・これまで、譲ったり捨てたりすることが多かったけれど、いろんな方法で便利なものに変えたり、売ったりしていたので驚きました。今度、僕も使わなくなったものが出たときに、今日の方法で少しでも環境や経済面でプラスになるようにしたいです。
- ・不要衣料は、人に譲ったり、違うものへ変えたり、フリーマーケットなどに売ったり、リサイクルに出したりすることができる。また、捨てるときに燃やす場合は莫大なお金がかかるので、気をつけようと思う。まず、買うときに必要かを考えることが大切だと思う。
- ・服を捨てることで環境が大きく変わっていくことがわかったので、他の人に譲るなどして、できるだけ捨てないようにしたいと思います。衣服は処理をしないとどんどん増えていくので、自分の必要なものをしっかり認識して、整理できるようにしたいです。

生徒たちは、授業を通して、不要衣料をすぐに焼却処分することが経済面や環境面での損失につながることに気づいた。そして、新たに知った不要衣料の活用方法を実践したり、長く保有できる衣服を選択したりしていきこうとする意欲をもつことができた。このように、自分自身のこれまでの衣服管理のあり方について見直すとともに、将来自立した際に自分で衣服を整理・活用していくための具体的な方法について学んだことが明らかとなった。

5. 今後に向けて

2015年の国内総生産（GDP）における家計消費の割合は、57.1%であった。家計消費の57.6%が財（商品）への支出であり、そのうち、被服及び履物への支出は7.6%、食料へ支出は42.7%であった。食料と比較すると、被服及び履物の割合は高くはないが、保有期間の長さを考慮すると、環境や人に配慮した衣服の入手方法について考えることは意義あることである。本実践を通して、衣服の入手や購入などインプットについても考えることの必要性に気づいた生徒がいたが、今後は、どのように生産されたものであるのか、衣服の背景を知り、持続可能な社会を意識した衣服選択ができるような授業を計画している。処分（廃棄）を考えた入手（購入）方法について、サイズや価格、表示などの既習の選択視点のみでなく、持続可能な社会の構築に向けて「環境」や「人のしあわせ」の視点ももてるような授業実践をしていきたい。

参考文献

- 1) 文部科学省, 中学校学習指導要領解説 技術・家庭科編, 2017
- 2) 堀内雅子, 衣服の消費実態と消費者教育, 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編, 第38巻, 195-205, 2003
- 3) 同上, 中学生の衣生活と家庭科教育, 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編, 第40巻, 151-159, 2005
- 4) 永山嘉恵, 佐々木和也, 赤塚朋子, 消費者の自立を促す中学校家庭科衣生活教材の開発, 宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀要, 第37号, 2014
- 5) 内閣府, 環境問題に関する世論調査, 2012
- 6) 東京書籍, 新編 新しい技術・家庭科 家庭分野, 2016
- 7) 消費者庁, 平成28年度版消費者白書, 2016